

## A 氏邸訪問記(2015.11.22)

### 1. はじめに

前回伺ったのは今年の8月でその様子は [A 氏邸訪問記\(2015.8.30\)](#) で報告しています。今回は、城下工業のクロックジェネレーター [SWD-CL10](#) を借りられることになり、急遽そのテストを行うことになり、M 谷氏とともにテストの立ち会いに訪問いたしました。

そのために SWD-CL10 の試聴に必要なリベラメンテシリーズのケーブルと micro iDSD を持参し、DA-3000 と MYTEK DIGITAL 192-DSD との SDIF 接続に対する SWD-CL10 からのクロック入力効果を評価しようとするのが目的です。さらに、11.2MHzDSD 音源を収納した [SONY の音楽用メモリーSR-64HXA](#) も持参して聴いていただくことにしました。

### 2. 試聴の経過

A 氏邸のスピーカーは、QUAD、Tannoy Arden、KEF の LS3/5a ですが、今回は QUAD の調子が悪いとのことで前回同様、KEF の LS3/5a を聴かせていただきました。この LS3/5a は低音を増強するために、写真では QUAD の陰にかくれている Tannoy Arden を平行に繋いでおられます。



当日のセッティング



左側上より  
micro iDSD  
SWD-CL10  
MYTEK DIGITAL 192-DSD  
DA-3000



SWD-CL10

今回、A氏がSWD-CL10を借りられた目的は、DA-3000とMYTEK DIGITAL 192-DSDのSDIF接続での再生の際、お持ちのGPS-777からDA-3000に外部クロックを入れたとき、ブツブツノイズが発生しますので、SWD-CL10を試してみたいということでした。なお、M谷氏がお持ちのMUTEK MC-3と拙宅のABS-7777ではそういったことはありません。この間の事情は下記において報告しています。

#### [MYTEK DIGITAL 192- DSD 導入記 \(6\)](#)

##### [A氏邸訪問記\(2014.7.30\)](#)

今回借用されたSWD-CL10の仕様と機能については[城下工業のホームページ](#)に詳細に説明されています。

まず、【実験その1】として、DA-3000→MYTEKのSDIF接続でのSWD-CL10からの外部クロック入力を行い、DA-3000の内部クロックからSWD-CL10外部クロックに切り替えた時のノイズ有無と音質確認を行いました。DA-3000へのアナログ入力は、PCから持参したmicro iDSD経由でDSD native再生などで行います。

この時、SWD-CL10外部クロックに切り替えた時、DA-3000への44.1KHzクロックの供給ができないという問題が起こりました。DA-3000も外部クロックを受けていないし、SWD-CL10の44.1KHzクロックのランプが付きません。あれこれやったところ、裏パネルの10MHz/DIST切り替えSWを10MHz側にすることが必要で表パネルのクロックソース切り替えSWでは設定できないことが分かりました。後から良く読むとマニュアルの後の方に書いてありました。

この状態で、しばらくmicro iDSD経由でHQPlayerとHi-Res EditorによるDSD

native 再生を行いました。DA-3000 への SWD-CL10 外部クロックはブツブツノイズの発生もなく、音質的にも相当に満足するものでした。

そこで、【実験その 2】として、SWD-CL10 はクロックディストリビューターの機能もありますので、GPS-777 のクロックを SWD-CL10 を介することにより、ブツブツノイズ発生が解消するかどうか、解消した場合の音質の確認を行うことにしましたが、GPS-777 のクロックを SWD-CL10 が受けて DA-3000 への外部クロック入力に分配することができませんでした。この分配操作の手順が十分に把握できていないところがありますので、再度チャレンジしてみたいと思っております。

次に、【実験その 3】として、条件を【実験その 1】に戻し、micro iDSD 経由で主に Hi-Res Editor を使用し DSD native 再生とハイレゾ PCM 再生を行い、音楽再生用 SONY SR-64HXA メモリーの音質向上効果を調べることにしました。SR-64HXA メモリーは USB2.0 のメモリーカードリーダーにセットし、Toshiba の 8GB メモリーを USB2.0 のメモリーカードリーダーにセットしたもので、同一音源を比べていくことにしました。音源としては、A 氏邸と拙宅において DA-3000 で録音した 5.6MHzDSF 音源とネットから入手した次のような由来の 11.2MHzDSD 音源を聴いていきました。

[音源探索情報紹介【2015No.8】](#)

[音源探索情報紹介【2015No.9】](#)

[音源探索情報紹介【2015No.10】](#)

[音源探索情報紹介【2015No.13】](#)

[音源探索情報紹介【2015No.16】](#)

まず、プロサウンド付録の 384KHzPCM 音源と 11.2MHzDSD 音源では、M 谷氏は 11.2MHzDSD の特徴は理解できるものの、ジャズとしては 384KHzPCM 音源が好みであるとされ、DA-3000 で録音した 5.6MHzDSF とそれを Hi-Res Editor で 11.2MHz にアップサンプリングした音源では、5.6MHzDSF のままの方が良いというご意見でした。

また、同一音源を SR-64HXA メモリーと Toshiba の 8GB メモリーで比較すると、M 谷氏は後者の方が良いというご意見で、メモリーカードリーダーから外して PC の SD スロットに入れて聴いても印象は変わりませんでした。

バロックバイオリンや無伴奏チェロを聴くと、細かい演奏の表情が SR-64HXA メモリーでは生演奏の印象に近いのですが、M 谷氏の聴かれるポイントは、上記の PCM と DSD の比較の場合と同様、ストレートでインパクトのある印象を受ける方を採られるようです。しかしながら、11.2MHzDSD 録音のパーカッション音源は、音の立ち上りと立ち下りの良さは認めていただきました。

### 3. まとめ

DA-3000→MYTEKのSDIF接続でのSWD-CL10からの外部クロック入力でのノイズ発生はなく、音質的にも満足いくものでしたが、SWD-CL10をクロックディストリビューターとして使用することは今回成功しませんでしたので、もう少し調べてみる必要があります。SWD-CL10については、より高精度のクロックの追加実装サービスもありますので、音質への効果についても興味があります。音楽再生用SONY SR-64HXAメモリーの評価については意見が分かれました。

以上